

## 2010年度在宅医療助成指定公募完了報告書(前期)

研究テーマ:

看取りを伴う在宅医療の地域ネットワーク作り

看取りの在り方についての啓発シンポジウムの開催

～在宅緩和ケアのリーダー薬剤師養成～

申請者名: 西川満則 (共同研究者:久保川直美、奥村直哉)

申請者の所属機関・職名:

独立行政法人国立長寿医療研究センター

呼吸機能診療科・緩和ケア診療部医師

申請者の所属機関所在地:

愛知県大府市森岡町源吾35

提出年月日:

2011年8月30日

## 【要約】

地域におけるリーダー薬剤師養成、看取りを伴う在宅医療（在宅緩和ケア）のネットワーク構築を目標に掲げて、研究が実施された。合計10回の継続的な在宅緩和ケア講習会が実施され、のべ548名が参加した。そのうち、調剤薬局薬剤師の参加は60.4%であった。アンケートの結果、在宅緩和ケアに関心が高くても、なかなか参加できない薬剤師の現状が浮き彫りになった。講習会参加によって、87%の薬剤師が、在宅緩和ケアに関心を持ち積極的に取り組んで行きたいという意識の変容をおこした。また、27名の在宅緩和ケア講習会の修了者が誕生し、修了者間でメーリングリストを構築した。今後、更に地域での看取りを伴う在宅緩和ケアのネットワークを強化して行く予定である。

キーワード:リーダー薬剤師養成、看取りを伴う在宅緩和ケアネットワーク構築

## 【目的】

本研究の第一の目的は、苦痛の緩和（医療用注射麻薬の普及を含む）、対人援助コミュニケーション、地域連携をキーワードに在宅緩和ケア講習会を行い（資料1、資料2参照）、在宅医療（在宅緩和ケア）を担う薬剤師の自己効力感、関心、やる気、モチベーションを高め、意識の変容を促すこと、それを調査することである。第二の目的は、在宅緩和ケア講習会（看取りの在り方についての啓発シンポジウムを含む。）を通じて、地域のリーダー薬剤師を養成し、看取りを伴う在宅医療のネットワークを構築することである。

## 【方法】

2011年2月から7月にかけて、合計10回の薬剤師を中心とした在宅緩和ケア講習会を実施し（資料1、資料2参照）、アンケート調査（薬剤師の意識の変容に関する調査を含む）を実施した。アンケート調査と解析は、共同研究者の久保川直美と奥村直哉によって実施された。また、6回以上（12時間以上）の講習会修了者に対して、独立行政法人国立長寿医療研究センターの修了証を発行し、同センターのホームページに掲載した。（資料3参照）。

## 【結果】

### 1. 参加者アンケート概要

のべ参加人数	548名
アンケート回収率	65.9%

### 2. 参加者内訳

調剤薬局	60.4%
病院薬局	12.5%
その他	27.1%

### 3. 調剤薬局薬剤師の在宅緩和ケアへの関心と実践

在宅緩和ケアに関心がある 95.0%

在宅緩和ケアに関わったことがある 51.7%

在宅患者訪問薬剤管理指導の経験がある 57.2%

### 4. 参加者の意識の変容

講習会の参加によって、在宅緩和ケアに関心をもち、今後取り組んでいきたいといった意識の変容がおこった割合（図1） 87 %

### 5. 在宅緩和ケアを行う上での問題点

医療用麻薬の在庫問題、無菌調製設備の問題、経費の問題、患者の情報提供の問題

### 6. 今後の在宅緩和研修会への期待

医療用麻薬の使用方法を学ぶ機会の提供

鎮痛補助薬の使用方法を学ぶ機会の提供

症例検討会の実施

他職種によるスモールグループディスカッションの実施

在宅緩和ケアに使用する機器について理解を深める機会の提供

実際の患者や家族からの体験談をうかがう機会の提供

## 【考察】

合計10回の在宅緩和ケア講習会を行う中で、調剤薬局薬剤師の在宅緩和ケアへの関心の高さがうかがえた。一方で、約半数が実際に在宅緩和ケアに携わるが、残りの半数は関心を持ちながらも十分に参入できていない現状が浮き彫りになった。また、87%の参加者が、10回にわたる継続的な講習会によって、在宅緩和ケアについて前向きな意識の変容をおこした。

今後、在宅緩和ケア講習会修了者間で情報共有する中で、多職種でのスモールグループディスカッションなどを加えながら看取りを伴う医療の地域のネットワークを作っていく必要があると考えられた。まずは、修了者間のメーリングリストを構築した。継続して情報共有し、地域での在宅緩和ケアの経験知を高め、看取りを伴う在宅医療のネットワークを更に強化して行く予定である。

## 【研究成果の公表(公表予定を含む)】

1. 国立長寿医療研究センターにおける高齢者の在宅医療と緩和ケア推進の試み(ミニフォーラム)  
中島 一光、西川 満則、洪 英在、松浦 敏博、横江 由理子、尾崎 充世、久保川 直美、  
奥村 直哉、三浦 久幸、鳥羽 研二  
第22回日本在宅医療学会学術集会 名古屋 2011年6月25日26日
2. 在宅緩和ケアにおける薬-薬連携に向けての取り組み  
久保川直美、奥村直哉、西川満則、中島一光、三浦久幸  
第5回日本緩和医療薬学会年会 千葉 2011年9月24日25日
3. 在宅医療の現場は薬剤師に何を期待するか 在宅緩和ケアにおける苦痛緩和と意思決定支援  
～在宅医療を支援する病院が薬剤師に期待すること～(シンポジウム)  
西川満則、久保川直美、奥村直哉 他  
第5回日本緩和医療薬学会年会 千葉 2011年9月24日25日
4. チューブのついた患者の退院調整—入院から在宅移行への情報共有—  
在宅緩和ケアにおける意思決定支援と技術支援～医療依存度の高い在宅医療にどう向き  
合うべきか～(シンポジウム)  
西川満則、久保川直美、奥村直哉 他  
第21回日本医療薬学会年会 神戸 2011年10月1日2日

## 資料1:在宅緩和ケア講習会について(ご案内)

### 1. 目的

在宅緩和ケアに携わる薬剤師のスキルアップとリーダー薬剤師の育成を目的とした講習会です。症状緩和、対人援助コミュニケーション、地域連携及び在宅での看取りの推進をテーマに講習会を行います。

### 2. 主催

国立長寿医療研究センター

### 3. 共催

愛知県西知多薬剤師会

### 4. 日程

平成23年2月から7月まで、全11回のシリーズで講習会を実施します。

(別紙参照)

なお、講習会は各回とも全て19時30分～21時30分に実施します。

### 5. 場所

国立長寿医療研究センター 研究所 2階会議室

### 6. 受講資格

現在又は今後、在宅緩和ケアに意欲的に取り組むもうとしている薬剤師であって可能な限り全ての講習会に参加できる薬剤師(人数が多い時は薬剤師が優先になりますが、在宅緩和ケアに関心のある全ての方が参加できます。)

### 7. 申し込み先

事務担当 鈴木佳子 E-mail: y-suzuki@ncgg.go.jp FAX: 0562-44-8518

### 8. その他

1)全11回の講習会のうち、6回以上講習会に出席された薬剤師の方には、国立長寿医療研究センターから修了証を交付します。

2)講習を修了された薬剤師の方であって、ご本人の了承が得られた薬剤師の方は、国立長寿医療研究センターのホームページにお名前を掲載させていただきます。

3)この講習会は、日本緩和医療薬学会の認定講習会として単位が認められるように申請する予定です。(1回の講習会を2単位として申請予定)なお、日本緩和医療薬学会の学会認定「緩和薬物療法認定薬剤師」の受験資格を得るためには、5年以内に100単位の取得が必要であり、年間最低取得単位数は20単位と定められています。

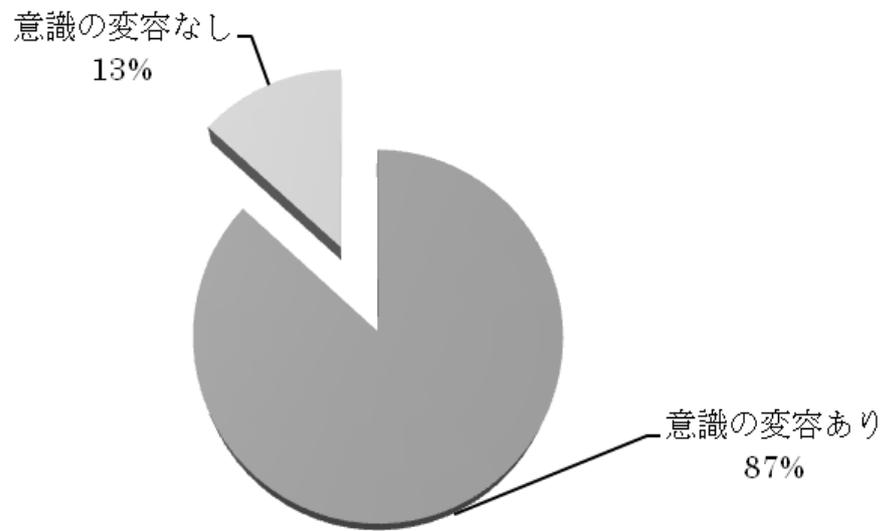
## 資料2:在宅緩和ケア講習会の日程と講師と演題

- 第1回 平成23年2月 1日(火) 大澤匡弘先生(薬剤師)  
”薬理学の知識を活用した薬剤師の在宅緩和ケア支援”
- 第2回 平成23年2月18日(金) 林章敏先生(医師)  
パラレルケア ～緩和医療の理念と実際～
- 第3回 平成23年3月 1日(火) 串田一樹先生(薬剤師)  
医薬品提供における医療連携と他職種連携について
- 第4回 平成23年3月17日(木)  
小笠原文雄先生(医師)  
在宅緩和ケアの実際～独居でも大丈夫～  
木村久美子先生(訪問看護師)  
在宅医療におけるTHPの活動
- 第5回 平成23年4月 7日(木) 杉本由佳先生(医師)  
在宅医療、ここまでできる！
- 第6回 平成23年4月22日(金) 村上智彦先生(医師、薬剤師)  
死生観のパラダイムシフト
- 第7回 平成23年5月13日(金)  
川越厚先生(医師)  
在宅緩和ケアに必要なチームアプローチ  
シンポジスト:  
川越厚先生(医師)  
佐藤博子先生(訪問看護師)  
前田桂吾先生(薬剤師)  
山口道子先生(ボランティア)  
(※山口道子先生は録音でのご参加)  
シンポジウム  
独居がん患者の在宅での看取り  
-医師、看護師、薬剤師とボランティアの連携-
- 第8回 平成23年6月 2日(火) 白石丈也先生(薬剤師)  
在宅医療における多職種連携へのかかわりと患者支援  
(※東日本大震災のため中止)
- 第9回 平成23年6月14日(火) 鈴木央先生(医師)  
何が在宅死を可能にするのか
- 第10回 平成23年7月 8日(金) 白髭豊先生(医師)  
在宅緩和ケアネットワークの構築～長崎での多職種連携の取り組み～
- 第11回 平成23年7月19日(火) 川村和美先生(薬剤師)  
在宅緩和ケアの質を向上する薬剤師の人間力

### 資料3:修了者名簿

修了証番号	氏名
1	加藤 大策
2	榊原 明美
3	竹中 佳代子
4	松浦 倫子
5	上地 小与里
6	倉橋 佳世
7	小島 奈美子
8	小林 伸一
9	濱田 圭介
10	鬼頭 由美子
11	久米 富美子
12	後藤 照子
13	新美 雅規
14	山本 一人
15	吉見 美保
16	鈴木 弘誉
17	高橋 幸香
18	廣瀬 君江
19	峰岸 冴子
20	大久保 匡邦
21	大野 泰一郎
22	高司 裕俊
23	竹原 祐子
24	牧原 俊康
25	奥村 直哉
26	久保川 直美
27	野田 康弘
<p>修了者の方全てが医療用麻薬を使用できる 薬局薬剤師ではありません。</p>	

図1：在宅緩和ケア講習会による  
受講者の意識の変容



### 【謝辞】

本研究は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成により行われました。謹んで御礼申し上げます。

本講習会において、座長をお引き受け頂きました野田康弘先生、間瀬広樹先生、また本研究において多大なるご協力をいただきました緩和ケア診療部の中島一光部長、在宅医療支援診療部の三浦久幸部長、野呂岳志薬剤部長、緩和ケア認定看護師の横江由理子さん、西知多薬剤師会の榊原明美先生に心よりお礼申し上げます。